

蹴鞠紋鏡（しゅうきくもんきょう）

令和2年度に千石唯司氏から新たに寄贈された「蹴鞠紋鏡」を展示します。

当館では神仙世界や楽園などの非現実的な図像が表された鏡を中心に展示していますが、今回は趣向を変えて、2022年にW杯が開催されるサッカー（アソシエーションフットボール）にも通じる「蹴鞠（しゅうきく／けまり）」の情景を表した鏡をご覧ください。



当館所蔵鏡の紋様模式図



湖南省博物館所蔵鏡の紋様模式図
※湖南省博物館所蔵の蹴鞠紋鏡は直径11.0cm

※いずれの模式図も同じ縮小率で表示

●表された蹴鞠の情景

園庭で蹴鞠に興じる男女の情景が円形の鏡の裏に半肉彫りで表現されています。

髪を高く結った女性（左手前）は鞠を蹴り上げ、頭巾を被った男性（右手前）は上半身を前傾させて待ち構えています。女性の足先にある鞠には草の継ぎ目状の表現がみえます。二人の背後では女性（左奥）と男性（右奥）がその様子を見守るように控えています。

背景となる園庭には、奇怪な形をした太湖石（たいこせき）（※）が中央奥にそびえ立ち、その両側にのびる柵は枅形を組み合わせて描かれ、これらと人物の隙間を埋めるように草が配置されています。

※太湖石（たいこせき）：

中国江蘇省と浙江（せつこう）省の境界にある太湖やその周辺で採れる石灰岩。長い年月をかけた水の浸食による多数の穴があいた複雑な形が特徴。庭石等に利用される。

【参考文献】《蹴鞠紋鏡》

孔祥星・劉一曼 2001『図説中国古代銅鏡史』中国書店（※初出 1981年）

中国青銅器全集編輯委員会編 1998『中国美術分類全集 中国青銅器集 第16巻 銅鏡』文物出版社

中野 徹 2000「198 青銅足球図鏡」『世界美術全集・東洋編 第6巻 南宋・金』小学館

●類例について

展示品の類似鏡は、FIFA MUSEUM所蔵品のほか、湖南省博物館や中国国家博物館所蔵品など複数面が確認できます。ただし、後者2例については鏡の直径が小さく、人物や背景物の形や配置などモチーフは概ね同じですが、園庭の柵、草や石、人物などの細部の表現や配置が異なり、複数の原型が存在していたことが分かります。

●娯楽としての蹴鞠を鏡に表すこと

唐時代末以降、鏡の裏面の装飾紋様は人物などの絵画的な描写へと変化します。

蹴鞠紋鏡には、少人数で鞠を蹴り渡す蹴鞠の一種「白打（ばいだ）」で遊ぶ様子が鏡の裏に描かれたとみられ、男女問わず当時の娯楽に興じる情景を伺うことができます。蹴鞠の人気は、現代の「フットボール」にも通じ、好きなものを日用品に描いて身近に置きたい思いは今も昔も同じといえます。

令和4年度 夏季スポット展示 解説資料

しゅうきくもんきょう

蹴鞠紋鏡

鏡の裏に“けまり”で遊ぶ。

令和4年7月21日（木）～9月11日（日）



初
展
示
!!

令和2年度 新規寄贈

蹴鞠紋鏡〈唐時代末～宋時代：10世紀～13世紀頃〉 直径15.1cm

兵庫県立考古博物館 加西分館
古代鏡展示館
Hyogo Prefectural Museum of Ancient Bronze Mirrors



〈HP〉



〈BLOG〉

〒679-0106 兵庫県加西市豊倉町飯森1282-1（兵庫県立フラワーセンター内）

TEL：0790-47-2212 URL〈HP〉<https://www.hyogo-koukohaku.jp/kodaikyou/>

FAX：0790-47-2213 〈blog〉<https://kodaikyou.blogspot.com/>

〔主催〕兵庫県立考古博物館加西分館

〔後援〕兵庫県 兵庫県教育委員会